

米軍基地普天間飛行場へのMV-22オスプレイ配備に反対する抗議決議

沖縄防衛局は去る6月6日、米海兵隊の垂直離着陸機「MV-22オスプレイ」を2012年から普天間飛行場に配備する計画であることを県や関係自治体に伝達した。

米海兵隊のオスプレイは、開発段階から過去に墜落死亡事故が相次ぎ、米国防省がまとめた報告書でさえ、エンジンや飛行制御システムの欠陥などが指摘され、技術的な問題に加え、安全性に疑念が持たれ、米国内では住民の反発でオスプレイの訓練そのものが中止に追い込まれる事態まで発生している。

県内においても同機の安全性を疑問視する声が強く、今回、日米両政府により公表された普天間飛行場へのオスプレイの配備計画は、普天間飛行場の持つ危険性と騒音問題、教育環境の悪化をさらに増幅させるものであり、断じて容認できるものではない。

本町では、普天間飛行場を離発着する米軍ヘリが日常的に住宅上空を飛行している。今回の配備計画で、本町上空に危険極まりないオスプレイが飛行すれば、現状に増して町民に騒音被害、墜落の危険と恐怖を押し付けるものである。

よって、北谷町議会は、町民の生命・財産、安全を守る立場から、普天間飛行場へのMV-22オスプレイの配備計画に断固反対し、その計画の撤回を強く要求する。

記

- 1 基地機能強化及び固定化につながるMV-22オスプレイの配備計画を断念すること。
- 2 普天間飛行場を即時閉鎖し、無条件撤去を実現すること。

以上、決議する。

平成23年6月22日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

米大統領 米国務長官 米国防長官
駐日米国大使 在沖米国総領事